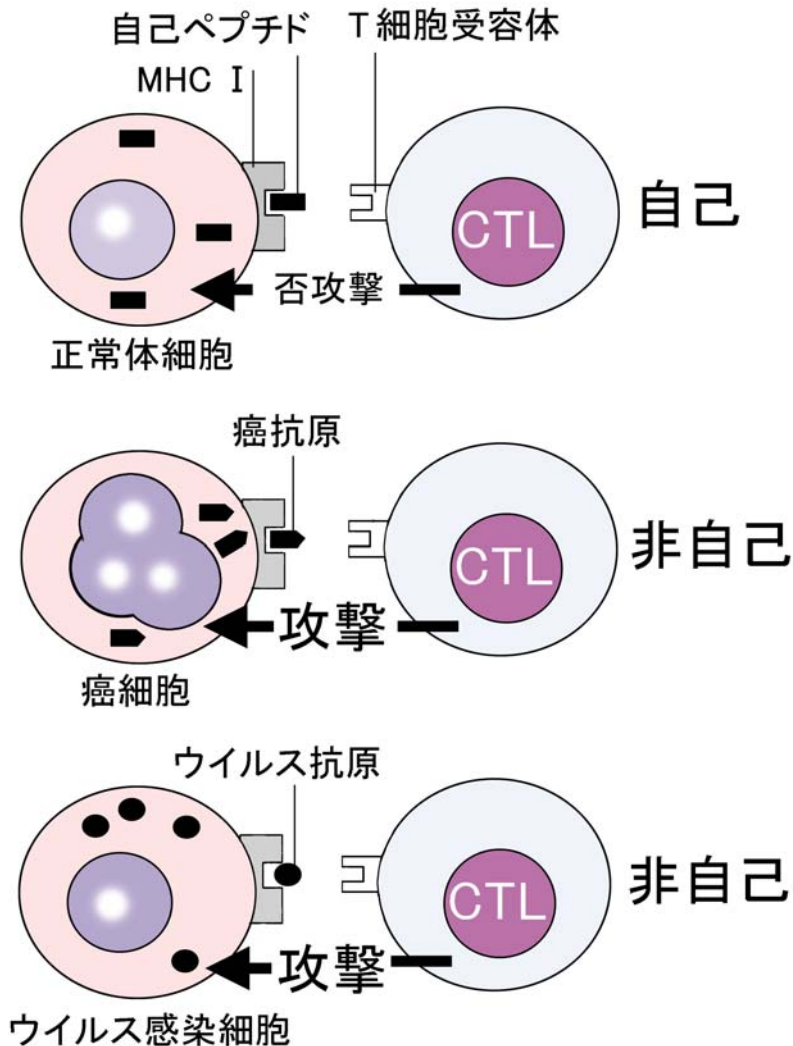


自己と非自己の認識



- 1) 自己の体細胞には MHC I が発現している。この MHC I を認識するのが細胞障害性Tリンパ球(CD8)である。細胞膜上の正常な MHC I と正常ペプチドは自己と認識され攻撃されない。(自己寛容)
- 2) 体細胞から発生する癌細胞では MHC I が発現されているが、さらに異常な癌抗原は非自己と認識され、攻撃される。(MHC 拘束性)
- 3) ウイルスは体細胞に感染してDNA のタンパク合成遺伝子を利用してウイルスの増殖を図る。つまりウイルスは生きた細胞だけに感染する。ウイルスに感染して障害された体細胞は MHC I を発現し、さらに細胞膜上にウイルス抗原を発現させる。これを細胞性Tリンパ球は非自己と認識し攻撃する。このような細胞障害性Tリンパ球による細胞の破壊は肝炎などで見られる。